

## 会 議 録

会議の名称 : 平成21年第3回向日市まちづくり審議会  
会議の議題 : 第2次向日市都市計画マスタープランの改定について  
会議の開催日時 : 平成21年10月19日(月)午後3時30分から5時  
会議の開催場所 : 向日市役所 大会議室  
会議の公開の可否 : 公開  
傍聴者数 : 傍聴希望者なし  
出席委員 : 6名  
宗田会長、岡委員・金田委員・岡崎委員・山口委員・和田委員  
配付資料 : 別添、資料のとおり  
審議会の内容 : 以下の審議録のとおり

### 議事録(概要)

#### 1 開会

宗田会長

今日の会議は公開だが傍聴者はないということで、事務局から資料説明をお願いする。

#### 2 議事

##### (1) 向日市都市計画マスタープラン(素案)について

資料により事務局から説明を行い、意見交換が行われた。

事務局

前回までの審議会における意見、事務局で見直しを行い修正した内容について事務局素案の説明。

宗田会長

修正事項を説明いただいたが、ご質問等があればお願いします。

岡崎委員

40ページのバリアフリー構想重点地区について、その他にも市街化区域があるがここだけされているのは何か考えがあるのか。

事務局

本市で作成したバリアフリー基本構想で位置づけられているものをマスタープランで表した。バリアフリー基本構想は平成19年3月に、市域内の重点エリアについて駅のバリアフリー化を図る、公共施設についてもスロープ等に重点的に取り組むという形で作成したものだ。道路整備については歩行者が安心して歩ける歩道整備等を重点的に入れている。

岡崎委員

地域的にバリアフリーの重点整備区域が市内の3分の2ほどかかっているが、物集女が入っていないのはなぜかと思った。

事務局

とくに市街地中心部を中心という形だ。

宗田会長

大きな理由は駅があること、公共施設、商業施設があり利用者が多いためだ。他にも広げるのが目指すところだが、段階的に進めていこうということである。

将来的にバリアフリー構想重点地区のなかがアーバンビレッジとして、車に依存せずに、高齢者も歩いて用が足せて暮らせて、外側に広がっていくところは元気な方がハイキングや散歩をするにはいい場所になるという考え方だ。

和田委員

物集女城と物集女の車塚古墳の間の丸塚古墳というのはどういうものか。

事務局

文化財の資料を写したので専門的にはよくわからない。

山口委員

市街地整備方針や住環境の整備方針に絡んで、向日市はまちづくりでいえば成熟段階に入っており、よりきめ細かい対策を講じていく必要があると感じている。

そのなかで31・34ページに市街地のオープンスペースの確保について記述があり、このなかに含まれていると考えればいいのだろうが、向日市は路地が多くそれが逆にまちの魅力になっている。それを楽しむような要素を入れながら魅力アップを図る方向性は打ち出せないか。オープンスペースに小さい休憩場所があれば、散歩の途中で休むスペースにもなる。買収が大変なら借地でもいいと考えるが、歩いて楽しい道づくりにそうした工夫を組み込んでいくことが方向づけられるといい。他のまちにはないプランにさせていただけるとありがたい。

宗田会長

38ページの3)の「歴史と緑の散策の径ネットワーク構想」の1・2段落の間に、今いわれたような路地のことを記述してはどうか。「幸い本市には細街路網が残されており、魅力的な路地や小径がよく残っている。これらを中心に散策ネットワークを形成することで、市民に歴史的資源と緑にふれる機会を整備する」とし、「それらを生かして観光ルートとして指定されている4コースを……」と続ける。休憩スポットやベンチ等の記述もあるが、それらにこだわらず、「市民による庭の整備など周辺住民の協力を得ながら」といった言い方を加えてはどうか。

和田委員

市民の協力を得て、向日市をどうしていくのかみんなで盛り上げて工夫をする。総合計画の審議の中では市民公募の委員から、向日市の道幅の狭さを逆手に取って、裏道を使い東向日や向日町駅に行けるルートを手直ししてはどうかとの声があった。ポケットパーク的なものもつくることも考えられる。

山口委員

24ページに「アダプト制度による活動促進」とあるので、業者で100%やる必要はない。

宗田会長

23ページに西ノ岡丘陵の竹の径について載っているが、竹林の間の雰囲気ある小さな道が整備されると西ノ岡丘陵の魅力も上がるだろう。

市民に協力してもらう前に、市でも、誰でもいいのでほめることをしなければならない。顕彰すると市民のやる気も出てくる。景観重要樹木を定めるなど仕組みをつくることも考えていただきたい。

岡崎委員

34 ページの住宅整備方針の 「桜並木のまち並み形成など」とつけているが、ここは第1種低層住居専用地域だが、ここに特徴のあることをされる予定なのか。

事務局

この地域は昭和初期に西向日駅の開発と良好な住宅開発が連動して桜並木が植えられた。市で「桜の径」と名づけて桜並木の保全事業に取り組んでいる。今後も保全事業として継続していきたいし、地域住民もそういう意識をもっている。すでにある資産として守っていくということだ。

宗田会長

「桜並木のまち並み形成など」と「など」がついている。前段の文章が示すようなすぐれた事例と捉えていただきたい。市と住民とのパートナーシップでまちを魅力的にしたいというメッセージの表れた。

並木が大きく育って建物を建築する際に幹・枝を切らざるを得ないようなことも起きているのか。

事務局

すでに起こっている。塀を一部動かすというので補償したケースもあるが、ご協力いただいている。

宗田会長

補償する原資は税金なので、自分たちで向日市をいいまちにすることであればもらうものではない。

山口委員

桜並木が資産価値を高めている。なくなると魅力が半減すると説得するべきだ。

金田委員

桜は毛虫が多いというクレームが出ていると聞いた。

宗田会長

今までは単に市が管理している道路の街路樹だった。それをここで桜並木のまち並み形成を住民と共に進めるという強い意思を込めて打ち立てた。市民もその自覚をもち、まち並み景観協定のようなものを締結するなどして並木を慈しんでもらうようになるといい。

山口委員

平成の開発が洛西口駅東口で行われようとしている。向日市のイメージを形成するにあたり、西向日と同じようなイメージアップできるものにしてほしい。阪急も豊中では民地の道路と塀の間に木を植えたりしている。そのような工夫をしてイメージのいい住宅地をつくる必要があることを計画でいえないか。

宗田会長

洛西口駅東口の区画整理はどこまで進んでいるのか。

事務局

仮換地の段階だ。

宗田会長

亀岡駅の北口でも同様なことが進められているが、地元の山や川が見えるようにしたいなど

の意見が出ている。

事務局

阪急に乗った人が東を見るとキリンビール跡地に大型商業施設ができ、その手前が区画整理の区域になるので、そこをどうするか。今は第 1 種低層住居専用地域の基準にしているが、土地利用としては高度利用を図る必要がある。そのなかでどう合意を考えていくかが課題だ。

宗田会長

今までのやり方だと容積や形など用途地域に沿った形で合意を取ってきたが、これからは緑の関係を入れ、昭和初期には桜を植えたが 21 世紀初頭に何を植えるべきかを考えてもらえるといい。商店街もプラタナス並木に沿った店など落ち着いた雰囲気にし、住宅地も庭木がある一歩グレードアップしたものにするような、環境・緑に誘導する方向も必要ではないか。

山口委員

いい場所なので売れる。いいイメージをつくるために業者に無理難題をつきつけたらいい。黙っていたら普通のまちになってしまう。

和田委員

この地域はキリンが開発するとき市街化区域にという話が出て、地権者と相談をし、向日緑都心という位置づけをして、地権者の方々も協力的だ。

事務局

ここは 19 年 11 月に線引きをした。その際、地区計画に向日緑都心、にぎわいとるおいのあるまちを目指すという方針は立てている。中身はこれから決めていく形だ。

岡崎委員

いったん区画してからそのなかで緑地提供するより、道路を工夫して空間をつくるなど最初に緑を確保しておいたほうがいいのではないかと、そうした意識をもった方が来る向日市になるのではないかと。

山口委員

どう魅力的なまちにするかの工夫がいるということだ。

宗田会長

34 ページに、「西向日の桜並木形成と洛西口の向日緑都心の形成など」と入れてはどうか。

事務局

地権者はあまり規制をかけてほしくないという意見が多い。

山口委員

規制ではなく、魅力的なまちにするための積極策を打つということだ。

宗田会長

その緑が仮に街路樹だとすると市が面倒をみることになるのか。

事務局

街路樹を確保するだけの道路幅員は今の計画ではない。地域の土地所有者の協力が必要だ。後退してもらってそこに緑を確保せざるを得ない。

公共減歩率は 35% と抑え、その範囲内で土地利用を考えてもらっている。地域の方がグレードアップするために壁面後退して緑を植えるといった誘導をしたい。

宗田会長

緑が豊かでないと最近土地が売れないといった話しておくほうがいいかもしれない。

山口委員

資産価値が高まって将来儲かるという話をセットにする。憧れの住宅地をつくろうといわないといけない。

宗田会長

一般の人は、ここに山科駅前のようなものができるのか、緑豊かな高級住宅地ができるのかそれぞれまちのイメージがあるが、向日市は緑があって美しいということはビジョンとしてもてらるだろう。

山口委員

区画整理なので公的な部分と民地が発生する。民地をどうコントロールするか、地域計画や協定などを結びながらやれるかどうかポイントだ。

岡委員

協定を結んでいるところはそれを抜けるためのマニュアルができてしまう。反面、協定を結んでいなくても、窓から公園が見られる住宅地を建てようとして書いてあると窓が公園を向いたまち並みができているところもある。協定を結ぶことがいいのか、わかりやすい言葉で約束事をつくるのがいいのかは難しいと感じた。

緑の確保として、外構を引いて庭にあるべき木を外に植え、つないでいくといいものになる。建物のコントロールは難しいが外構のコントロールなら効果的にできるのではないかと。

宗田会長

民度の問題で、自分がルールを守らなければ損になることがわかるかどうか。一定の紳士協定を結ぶところと、抜け道を探すところとそこに合ったルールをつくらないといけない。

岡委員

先ほどの駅前の高度利用は古い考え方だ。学生たちに駅前の再開発を立案させると高いビルをどけてからどうするかと考える。高層建築物を作らずにどう頑張るか、他とは違う駅前の景観をつくるべきではないかと。

宗田会長

長岡京の駅前再開発は古く見える。今後、問題が深刻化するのには日中に入っけがないことだ。観光案内所にも人がいない。居心地が悪い、20世紀的な空間だ。

事務局

単なる横断歩道のようにになっている。向日市も放っておいたら乱開発されるので、魅力的なまちづくりのために動いているところだ。

(バリアフリー基本構想で道路や公共施設の段差解消を積極的に進める場所の地図配付)

宗田会長

第5章の5「都市環境の整備方針」に関係するが、向日市の古墳群に史跡指定はないのか。

事務局

国の方までではない。

宗田会長

ほとんど民地になるのか。

事務局

市のもの、財産区のもの、民地もある。桓武天皇皇后陵は宮内庁所管だ。

宗田会長

管理状況はどうか。

事務局

市が管理しているものは決められたときに見学できるが、宮内庁のほうはノータッチだ。

宗田会長

宮内庁も資金がないので、優先順位が高くないものは放置されていることが多い。定期的に宮内庁に申し入れて予算をつけてもらったほうがいい。

山口委員

向日市のものはきれいに管理されている。

事務局

管理事務所がある。

宗田会長

5の(2)の「潤いある自然景観の保全」のなかで、公園として管理するものと風致として森林等を管理するものがあり、古墳群はその中間に位置づけられる。向日市では歴史環境を重視しながら古墳群の整備方針を決め、今後どうしていくかを議論したほうがいい。

事務局

市が公園として管理している文化財が多い。

宗田会長

都市環境の整備方針なので、そういうことをきちんと書いたほうがいい。

事務局

3世紀の古墳があるところは数少ないので売り出すべきだとは考えている。教科書に写真が載っている土器もある。

宗田会長

まちの観光案内に載せることもできる。

山口委員

物集女城跡はどうされるのか。

事務局

民地で現在は農地だ。物集女城を考える会で議論はされているが府の文化財指定は難しい。将来的に市が買収して市の公園として管理することも考えているが、市街化区域内農地なのでなかなか難しい。

宗田会長

逆線引きで市街化区域を外すことは受け入れられそうか。

事務局

地元からは公園にして記念碑を立ててほしいとの要望が出ている。地権者の意向もあるので調整区域にするのも難しい状況だ。

宗田会長

最初から市街化調整区域にしておけばよかった。市街化区域を逆線引きで外して、今地価が下がっているなかですれば資金も少なくてすむといった手もある。

46、47 ページについては以前議論をして修正していただいているが、これでいいだろうか。

51 ページ以降でご意見はないか。まちづくり審議会の基盤となるまちづくり条例との関係はどう捉えればいいのか。向日市がこの数年つくりあげてきたまちづくりの仕組みがこの審議会でもあるが、まちづくり条例制定後のトーンで書いてほしい。まちづくり条例ができたことを踏まえたうえで、次のステップとしてはまちづくりセンターでも、まちづくり NPO でもいいかもしれない。

事務局

今年の4月に市民協働センターが設置され、まちづくり活動を支援する形ができた。

宗田会長

今後もまちづくり活動が出てくるよう促し、市として支援することを具体例に入れて書いたほうがいい。

53 ページの「都市計画行政の推進」で(1)の見直しに関しても、都市計画道路に関わる計画等すでに実績がある。「見直しを進めてきました」と書いてもいい。今、他に見直しの計画はあるのか。

事務局

都市計画道路網の見直しと、キリンビール跡地、その隣の区画整理事業といった用途地域の見直しは出てくると考えている。

宗田会長

53 ページの「民間活力の積極的な導入」がキリンビール、区画整理の話だ。54 ページの進行政管理はここで承認するといったものではないが、他にご意見はないだろうか。

今日出たご意見は配慮して、調整する。次回で概ね審議を終了し、市長へ答申したい。

山口委員

17 ページの人口フレームだが、2005 年度に 5 万 5,041 人、2020 年度に 5 万 5,800 人と想定されている。人口はほとんど増加しないというフレームに設定されているのが多少気になる。コントロールするという意思表示ならそれはそれでかまわないが。

宗田会長

減るという想定で、若い世代も入れながらこれを維持するということだ。

山口委員 3

土地利用については線引きも用途も一部含むが、それ以外はいらないという方針でよかったか。確認だけだ。

事務局

そうです。

宗田会長

逆線引きなどで全体としてはつくるっていくような形になる。

今日の議論はこれで終了する。

事務局

事務局としては今日のご意見を修正し、11 月下旬に再度、審議していただき、市長に答申していただきたい。同時に関係機関との協議も進めたい。

( 2 ) その他 ( 次回日程調整 )

事務局

次回は 11 月 25 日 ( 水 ) 14 時から開催したい。

3 閉会

事務局

本日の審議会は以上で終了する。